

右終リテ 陛下ハ寶球ヲウエストミンスター管長ニ渡サレ管長ハ之ヲ聖壇ニ復ス

着飾式 (THE RING, THE SCEPTRES.)

次ニ寶什管理官進ミテ紅寶石指環ヲ「カンタベリー」大僧正ニ渡ス
大僧正ハ帝王ノ尊嚴ト「カソリック」信仰擁護ノ表章ナル此指環ヲ受ケラレヨ云々ト謂ヒテ 陛下ノ右手第四指ニ之ヲ箝ム
次ニ「ウエストミンスター」管長ハ祭壇ヨリ十字章ノ笏及鳩章笏ヲ取リテ之ヲ大僧正ニ渡ス大僧正ハ先ツ十字章笏ヲ 陛下ノ右手ニ獻シ「王權及正義ノ表章タル笏ヲ受ケラレヨ云々」ト謂フ
次ニ大僧正ハ「平等及慈悲ノ杖タル此鳩章笏ヲ受ケラレヨ」ト謂ヒテ之ヲ 陛下ノ左手ニ獻ス

戴冠式 (THE CROWNING)

「カンタベリー」大僧正ハ祭壇ノ前ニ立チ王冠 (St. Edward's Crown) ヲ兩手ニ捧持シ再ヒ自分ノ前ニ置キテ左ノ如ク唱フ

神ヨ誠實ノ冠タル神ヨ願クハ神ノ僕ニシテ又我等ノ王タル「ジヨ」上ニ祝福ヲ垂レ給ヘ今茲ニ彼ノ頭上ニ高貴ナル黄金ノ冠ヲ戴カシムルニ方リ陛下ハ此時頭ヲ稍前方ニ下ケラル神ノ無量ノ榮光ヲ以テ彼ノ心ヲ盛ナラシメ給ヘ而シテ我等ノ主長ヘノ王「イエス、クリスト」ノ惠ニ依リテ一切ノ王徳ヲ冠セシメ給ヘ
大僧正ハ「ヨーク」ノ大僧正及諸他ノ僧正ト共ニ祭壇ヨリ來リ「ウエストミンスター」管長ヨリ王冠ヲ受取り之ヲ 陛下ノ頭上ニ戴カセ奉ル

此時參列員ハ一齊ニ大聲ヲ舉ケテ God Save the King ヲ歡呼シ參列貴族ハ此時迄手ニセル各自ノ冠ヲ戴ケリ同時ニ喇叭ヲ吹奏シ太鼓ヲ

鳴ラシ又信號ニ依リ

一七二

Hyde Park

London Tower

Windsor

ニテ四十一發

ニテ六十二發

ニテ四十一發

ノ禮砲ヲ發セシム

參列員ノ歡呼止ミタル後大僧正進ミテ左ノ要旨ヲ宣ス

神ハ光榮ト正義ノ冠ヲ戴カシメ給ヘリ確固タル信仰ト諸多ノ善行ヲ以テ永久ニ此王國ヲ統治セラレヨ

聖樂隊ハ神ノ旨ニ依リテ王道ヲ進メノ聖歌ヲ唱フ

聖書捧呈式 (THE HOLY BIBLE)

次ニ「ウエストミンスター」管長祭壇ヨリ聖書ヲ取りテ「カンタベリー」ノ大僧正ニ渡シ大僧正ハ之ヲ 陛下ニ捧ケ左ノ如ク告ク

我等ノ仁慈ナル王ヨ、我等ハ茲ニ最モ貴キ御書ヲ獻ス茲ニ智識アリ茲ニ帝王ノ規典アリ皆神ノ生ケル宣詔ナリ
陛下ハ之ヲ受ケ更ニ之ヲ「ウエストミンスター」管長ニ渡シ再ヒ祭壇ニ供フ「ヨーク」ノ大僧正以下復席ス

祝禱式 (BENEDICTION)

「カンタベリー」大僧正「ヨーク」大僧正及諸多ノ僧正貴族ハ共ニ大聲ニ左ノ祝禱ヲ捧ク

主ハ卿ヲ祝福シ卿ヲ守護ス今卿ヲシテ其民ニ君臨セシメ給ヘリ主ハ卿ヲ此世ニ榮エシメ給ハン又將ニ來ルヘキ主ノ世ノ福祉ヲ享ケシメ給ハン

主ハ卿ニ豐饒ナル此國土ト適順ナル氣候ト優勝ナル陸海軍及此全帝國ヲ賜ヘリ又忠實ナル元老賢良ナル顧問及百官臣僚竝ニ

一七三

忠誠ナル貴族敬虔ニシテ重要ナル僧侶ト恭謙ニシテ平和從順ナル人民ヲ賜ヘリ

次ニ大僧正ハ民衆ニ向ヒ左ノ如ク祝禱ス

全能ナル主ハ僧侶及貴族ノ茲ニ列シ此國一切ノ民衆ト共ニ此壯嚴ナル儀式ヲ行フヲ得セシメ給ヘリ願クハ神ノ至大ナル惠ニヨリ又仁慈ナル王ノ指導ニ依リ我等ヲシテ共ニ永ク平和ト繁榮ヲ得セシメ給ヘ

登極式 (THE INTHRONIZATION)

右終テ 陛下ハ侍側ノ僧正、國務大臣 (Great Officers of State) 寶劔寶器捧持者ヲ從ヘ玉座式場中央ニ設ケアルモノニ登ラセラル隨從ノ諸官ハ 陛下ノ周圍ニ階下ニ侍立ス
大僧正ハ 陛下ノ前ニ進ミテ左ノ如ク告ク

端然佇立セラレヨ、自今此帝王ノ尊嚴ヲ確保セラレヨ、是此日全能ノ神ノ大權ヲ以テ 陛下ニ賜ハリシモノナリ云々

臣事式 (THE HOMAGE)

陛下ハ十字章笏及鳩章笏ヲ捧持官ニ渡サル之ヨリ臣事禮始マル第一ニ「カンタベリ」大僧正 陛下ノ御前ニ進ミ(參列三十五人ノ僧正ヲ代表ス) 陛下ノ膝下ニ拜跪シ忠良誠實ニ 陛下ニ臣從スヘキ旨ヲ陳ヘ畢ツテ 陛下ノ左頬ニ接吻ス、 各僧正ハ其席ニ在リテ同時ニ拜跪臣從ノ禮ヲ行フ
次ニ 皇太子殿下(皇族タル王國ノ貴族ヲ代表セラル)ハ冠ヲ脱シテ陛下ノ御前ニ拜跪シ服從ノ辭ヲ述ヘラレ手ヲ 陛下ノ冠ニ觸レ陛下ノ左頬ニ接吻セラル
同時「アーサー、コンノート」殿下ハ自席ニ於テ臣事禮ヲ行ハル

之ヨリ皇族ハ一人宛御前ニ進ミ手ヲ冠ニ觸レ接吻ノ禮アリ

參列貴族 (Duke 二十二人 Marquess 二十九人 Earl 百四十八人

Viscount 四十三人 Baron 二百九人)ハ各級ノ先任者ノミ一人御前ニ進

ミ臣從ノ辭ヲ陳ヘ手ヲ陛下ノ冠ニ觸レ陛下ノ左頬ニ接吻ス同時ニ同級貴族ハ自席ニ在リテ拜跪臣事禮ヲ行フ

當日參列ノ皇族タル Duchess 五人 Duchesse 五十人 Marchioness 二十

八人 Countess 百五十二人 Viscountess 四十四人 Baroness 二百二十一人ナリ

右終テ 陛下ハ先ニ渡サレタル笏ヲ執ラレ侍側ノ僧正ハ暫ク

陛下ノ頭上ヨリ冠ヲ除キ 休息シ參ラセタリ

臣事禮中聖樂隊ハ左ノ聖歌ヲ唱フ

正シキ者ヨ「エホバ」ニヨリテ喜ヘ、讚美ハ直キ者ニ適ハシキナリ、
「エホバ」ヲ己ガ神トスル國ハ幸ナリ、「エホバ」ノ嗣業ニセントテ選ヒ

給ヘル其民ハ幸ナリ、「エホバ」天ヨリ總テノ子ヲ見、其在ス所ヨリ地ニ住ム諸々ノ人ヲ見給フ、「エホバ」ハ總テ彼等ノ心ヲ作り其爲ス所ヲ悉ク照鑑シ給フ、王者戰士ノ多キヲ以テ救ヲ得ス、勇士力ノ大ナルヲ以テ救ヲ得サルナリ、觀ヨ「エホバ」ノ目ハ「エホバ」ヲ畏ル、モノ竝ニ其憐憫ヲ望ムモノ、上ニ在リ、此ハ彼等ノ靈ヲ死ヨリ赦ヒ饑饉ノ時ニモ世ニ存ラヘシメン爲ナリ我儕ノ靈ハ「エホバ」ヲ俟チ望メリ「エホバ」ハ我等ノ援、我儕ノ盾ナリ我儕ハ聖キ名ニヨリ恃メリ斯クテソ我儕ノ心ハ「エホバ」ニアリテ喜ハン「エホバ」ヨ我儕汝ヲ俟チ望メリ、之ニ循ヒテ憐憫ヲ我儕ノ上ニ垂レ給ヘ

(馬太傳三三ノ一、一二—一六、一八一—二二)

式終リテ太鼓ヲ鳴ラシ喇叭ヲ吹キ參列員ハ一齊ニ

God save King George

Long live King George

ヲ唱フ終リテ「カンタベリ」大僧正祭壇ニ進ム

皇后陛下ノ聖油式、戴冠式、登極式

皇帝陛下ノ戴冠、登極式、中祭壇ノ南側ニ着席アリシ
皇后陛下
ハ右ノ聖歌終ルヤ侍側ノ僧正及御衣捧持者ヲ從ヘ祭壇ニ進ミ跪坐セラル

「カンタベリ」大僧正ハ左ノ祈禱ヲナス

全能ノ神ヨ、總テノ善ノ源泉タル神ヨ冀クハ我等ノ祈願ヲ聽カセ給ヘ而シテ神ノ婢「メリー」ノ上ニ祝福ヲ垂レ給ヘ、神ノ名ニ依リ満腔ノ至誠ヲ以テ今ココニ我儕ノ
皇后ノ聖儀ヲ行ハントス願クハ神ハ常ニ后ノ上ニ在マシテ心身共ニ危害ナカラシメヨ、后ヲシテ淑徳ノ大ナル模範タラシメ又此王國ノ幸福タラシメ給ヘ

此ノ祈禱ハ往昔ノ戴冠式ニアリテハ
皇后陛下ノ「ウエストミンスタ」寺院西玄關御着ノトキニ行ヒシモノナリ
終ツテ
皇后陛下ハ戴冠式用法凡ニ跪坐セラル

Duchess of Hamilton

Duchess of Montrose

Duchess of Portland

Duchess of Sutherland

ノ四人
皇后陛下ノ上ニ金色天蓋ヲ捧持ス

「カンタベリ」大僧正ハ「神ノ御名ニヨリ茲ニ塗油ス之ニヨリテ后ノ譽ヲ増シ神ノ惠ニヨリテ后ヲ安固ナラシメヨ云々」ト謂ヒテ
皇后陛下ノ頭上ニ塗油ス

次ニ大僧正ハ指環ヲ取リテ「誠實ナル信仰ノ印象タル此指環ヲ受ケラレヨ」ト謂ヒテ之ヲ
皇后陛下ノ右手ノ第四指ニ嵌ム

次ニ大僧正ハ 皇后ノ冠ヲ取リテ之ヲ 皇后陛下ノ頭上ニ戴カセ奉リ左ノ如ク謂フ

光榮名譽歡喜ノ此冠ヲ戴カレヨ、不肖ナレト教職タル我等ノ手ヲ以テ今日后ノ頭上ニ戴冠セシメ給ヘル神ハ后ヲシテ仁慈ノ志ニ富マシメ現世ニ在リテハ王后ノ德ヲ后ニ授ケ未來ニ於テハ無窮ノ歡樂ヲ與ヘ給フナリ

此時參列貴族夫人ハ一齊ニ戴冠ス

次ニ「カンタベリー」大僧正ハ 皇后陛下ノ右手ニ 皇后笏ヲ左手ニ鳩章杖(象牙ノ)ヲ授ケ

「神ヨ、我等ノ皇后ニシテ神ノ婢タル「メリー」ヲ惠ミ彼ノ淑德ニヨリテ彼カ茲ニ得タル威嚴ヲ増サシメヨ云々」ト祈禱ス

次ニ 皇后陛下ハ侍側ノ僧正及隨從員ヲ從ヘ玉座壇ニ登リ陛下ノ御前ニ於テ御會釋アリ特ニ式ヲ用キスシテ玉座ニ着カセラル

右終テ莊嚴ナル聖餐式アリ 兩陛下ハ祭壇ニ進マレ祭壇布及鑄金塊 (Pall and Gold ingot) ノ奉獻 (Oblation) アリ式終ツテ 兩陛下ハ冠ヲ戴キ笏ヲ執ツテ玉座ニ着カセラル
「カンタベリー」大僧正ハ Post Communion ヲ行ヒ最後ニ聖樂隊ハ Te Deum ヲ唱フ

之ヲ以テ式全ク終リ 皇帝陛下ハ寶劔捧持者ヲ前ニシ寶劔捧持者ト共ニ(寶器ハ此時祭壇ニアリ)式壇ヲ下リテ St. Edward Chapel ニ入御アリ

寶器捧持者ハ祭壇ノ側ヲ通過スルトキ之ヲ受領ス

皇后陛下ハ 陛下ト同時ニ玉座ヲ立タレ北側(皇帝陛下ハ南側)ノ扉ヲ經テ St. Edward Chapel ニ入御アリ

兩陛下ハ Chapel 内ニテ祭壇ノ前ニ立タレ左手ニ持タレタル鳩章笏ヲ「カンタベリー」大僧正ニ渡サレ大僧正ハ之ヲ祭壇ニ安置ス

次ニ 陛下ハ侍從長ノ介添ヲ以テ先キニ式ヲ以テ着セラレタル御衣ヲ脱セラレ紫色天鷲絨ノ御衣ヲ召サレ Crown of State ト稱スル王冠ニ改メラレ「カンタベリー」大僧正 陛下ノ左手ニ寶球ヲ奉ル
金拍車 St. Edward Staff 等ヲ捧持セル者ハ之ヲ「ウエストミンスタ
」管長ニ渡シ管長ハ之ヲ祭壇ニ安置ス

此間ニ掛官 (Officer of Arms) ハ還御ノ鹵簿ヲ整頓ス

兩陛下ハ還御ノ御仕度整ヒ St. Edward Chapel ヲ出御アリ聖樂壇

ヲ通リテ西玄關ニ進マル此時 皇帝陛下ハ前記王冠 (Crown of State)

ヲ戴カレ右手ニ十字笏、左手ニ寶球ヲ持タレ 皇后陛下ハ皇后冠ヲ

戴カレ右手ニ十字笏、左手ニ鳩章笏ヲ保持セラレタリ 皇太子殿下及

英國皇族ハ戴冠シテ院内鹵簿ニ入ル

院内鹵簿ノ序列ハ着御ノ時ニ同シ但「ウエストミンスタ」管長及役

僧竝ニ着御ノ時聖典、聖餐杯、聖餐皿ヲ捧持セシ僧正ハ院内鹵簿ニ入ラ

スシテ聖樂壇ニ止マル又寶劔寶器ハ院内鹵簿ノ西玄關ニ達シタル時
寶器管理官之ヲ受取リテ收藏シ還御ノ序列ニ入ラス

兩陛下ハ西玄關ヨリ直ニ八頭曳ノ玉車ニ召サル 兩陛下ノ服裝

院内鹵簿ノ時ニ同シ鹵簿ハ午後二時第三部(兩陛下ノ鹵簿)第二部(皇太

子英國皇族第一部(外國皇族特派大使)ノ順序ニテ「ウエストミンスタ」

寺院ヲ發シ左記順路ヲ經テ二時五十分「バッキナム」王宮ニ還御アリ

兩陛下「ウエストミンスタ」寺院御發輦ノ時及「バッキナム」王宮ニ御着

輦ノ時

「ハイドパーク」ニ於テ 二十一發

「ロンドンタワー」ニ於テ 四十一發

ノ禮砲ヲ發セリ

還御順路

Parliament Street—White Hall—Cockspur Street—
Pall Mall—St. James's Street—Piccadilly—
Hyde Park Corner—Constitution Hill.

王宮ニ還御ノ後 兩陛下ハ即位御正装ノ儘短時間階樓ニ出御アリシヲ以テ王宮前ノ民衆ハ一齊ニ歡呼奉祝セリ

式典總裁命令

聖餐式勤行中内陣ニアル諸員ハ Gloria in Excelsis ヲ唱フ時ノ外ハ
跪座シアルヘシ

但シ寶劔捧持ノ任ニアル者ハ此限ニアラス

貴族及下院議員ニアラサルモノニシテ戴冠式當日「ウエストミンスター」寺院ニ於ケル式典拜觀證ヲ有スルモノハ軍服若ハ正服用參院
スヘシ

各級有爵者ハ制規ノ爵服及頸飾ヲ着用スヘシ

下院議員ハ宮廷服、軍服若ハ Morning Dress ヲ着用スルコトヲ得

婦人ハ「トレーン」ヲ附着セサル宮中服裝ヲナスヘシ

戴冠式當日ハ本職ノ署名アル拜觀證ヲ所持スルモノニアラサレハ
何人タリトモ「ウエストミンスター」寺院ニ入ルヲ許サス又鹵簿内ニ指
定ノ位置ヲ有スルモノ、外何人タリトモ鹵簿内ニ入ルヲ許サス

交通ノ混雜ヲ避クル爲メ内務大臣ノ發布セル「ウエストミンスター」寺院ニ參入及退出ノ車馬ニ關スル布達ハ特ニ嚴重ニ格守スヘシ

(終)

戴冠式ニ用ヒタル寶器

往古英國國王ハ出入共ニ寶器ヲ携帶シ殊ニ戰爭ノ場合ニハ兜ノ上ヨリ王冠ヲ戴キテ出征セルコトアリ從テ寶什ノ破損散逸スルコト屢々ナリシヲ以テ「ヘンリー」八世ノ時改メテ倫敦塔ニ保管スルコト、ナリテ今日ニ及ヘリ

王冠 (St. Edward Crown)

英王戴冠式ノ始ハ「エグバート」王 (Egbert) 千八百五十年前ニ創マルト傳ヘラル、モ信憑スヘキ記事ノ存スルモノナシ降ツテ Alfred 大王ニ及ビ始メテ儀式ラシキモノ起リ此時用ヒラレタル王冠ハ歴代ニ傳ヘテ爾後ノ諸王ハ此ノ王冠ヲ以テ戴冠式ヲ舉ケシカ Edward Confessor ノ時ニ至リテ儀式ハ全ク宗教的トナリ王ノ戴冠ノ意義モ從來トハ趣ヲ異ニスルニ至レリ爾來此冠ヲ稱シテ St. Edward 冠ト謂フ然ルニ此冠ハ「クロンウエル」革命ノ時他ノ王室ノ寶器ト共ニ破壊セラ

レタルヲ以テ王政恢復後「ウインザー」ノ舊記ニ依リ「チャールズ」二世ノ宮中鍛工「サー、ロバート、ウエーナー」ニ命ジテ前ノ型ノ如ク新造セシメ今日ニ傳ハルモノニシテ今ヨリ八百六十二年ノモノナリ

「ビクトリア」女皇ノ王冠ハ「ビクトリア」女皇戴冠式ニ用ヒラレシモノニシテ千八百三十八年ノ製作ニテ多クノ貴重ナル古寶石ヲ用キ千年來ノ諸王ノ冠又ハ指環ニアリシ寶石ヲ嵌入シアリタリ

戴冠式後ノ儀式即チ國會ノ開會等ノ場合ニ用ユル王冠ハ右ノ「エドワード」王冠ト別個ノモノニシテ Crown of State ト稱シ代々ノ國王ハ各自ノ頭ニ合セテ一個宛ヲ作り其國王箇人ノ所有ニ屬ス皇后ノ用ユル冠ハ右ノ如ク二種ナラス State Crown ノミナリ

指環 (Rings)

「聖」エドワード「ノ指環ハ扁平ナル大紅寶石ニセント、ジョージ」ノ十字ヲ刻シ之ヲ延ヘノ金環ニ嵌入セルモノナリ金環ハ國王代々毎ニ指ニ

合セテ作り直スモノニシテ此指環ハ第四指ニ嵌ムルノ定メナリシカ「ビクトリア」女皇戴冠式ノ時式典ノ係員第四指トハ小指ノコトナリト解シテ製作セリ無名指ヲ第三指ト呼フモノアルヲ以テ斯ク誤リタルモノナラン然ルニ戴冠式ニ當リ大僧正ハ指環ハ拇指ヨリ數ヘテ第四ノ指ニ嵌ムヘキモノニシテ此先例ハ變改スヘカラスト主張シ強ヒテ女皇ノ無名指ニ嵌メシカ女皇ノモノハ小指ニ合セテ製セシモノナレバ女皇ハ指端ノ痛ミ甚シク終ニ堪エ難ク見エシヨリ侍側ノ僧正ハ一椀ノ水ト石鹼トヲ取寄セ漸ク採取リタル事アリ先帝「エドワード」七世陛下ハ此例ニ鑑ミ第四指ノ意義ヲ定ムルコトヲ命セラレシト謂フ

聖油盒及匙 (Ampula, Spoon)

聖油盒ハ金ニテ作り鷲ノ形ヲ爲セリ其高サ九吋アリ螺子ヲ有スル頭部ヲ外シテ油ヲ注キ込ミ塗油式ノ時ハ嘴ヨリ油ヲ匙ニ注クナリ往昔「カンタベリー」ノ大僧正カ聖母「マリア」ノ靈ヨリ授ケラレシヲ其後「エ

ドワード三世ノ御代ニ至リ或ル名僧カ夢想ニ依リテ大僧正ノ手記ト共ニ之ヲ發見セルモノナリト傳説セラルル千三百九十七年「エドワード」六世ノ時ヨリ戴冠式ニ使用セリ少クトモ十二世紀ノ作品ナリト稱セラル、モ其後屢々修理ヲ加ヘ兩翼、双脚、基座何レモ新造セラレ舊時ノ儘ナルハ僅ニ頭部ノミナリ

匙ハ長サ十吋ニシテ金製ナリ塗油ノ時之ニ油ヲ注キ大僧正ハ指頭ヲ之ニ濡ラシテ十字狀ニ塗ルナリ

寶球 (Orb)

寶球ハ基督教カ英王國ヲ支配スルノ意義ヲ表セルモノニシテ「エドワード、コンフェッサー」以來ノ儀式ニ用フ大小二球アリ大球ハ「チャールス」二世ノ時ノ作ニシテ直徑六吋ノ金球ニ寶石ヲ裝嵌シアリ(今回ハ此球ヲ用キタリ)小球ハ「マリー」二世ノ時ノ作ナリ

十字笏 (Sceptre with the Cross)

王ノ右手ニ授クル十字章附笏ハ金製ニシテ長サ二呎九吋アリ「カリナン」(Cullinan) 金剛石ノ裝嵌アリ尖端ニ球アリ世界中最も美麗ナリト稱セラルル紫水晶ヲ裝着シアリ其上ニ金剛石ノ嵌装シアル十字架ヲ附ス

鳩章笏 (Sceptre with the Dove)

戴冠式中ニ王ノ左手ニ授クル笏ニシテ中央ト兩端ニ寶石ノ裝嵌アリ上端ニ琺瑯ヲ施シタル鳩章ヲ附ス長サ三呎七吋アリ

右ノ二笏ハ「チャールス」二世ノ時ノ作ナリト謂フ

戴冠式椅子 (St. Edward Chair)

椅子ハ「キング、エドワード」ノ椅子トモ稱セラレ歷代ノ國王ハ之ニ座シテ戴冠ノ式ヲ舉ケタリ材ハ櫟ニシテ其ノ座席ノ下ニ一ノ石ヲ納メアリ此石ハ愛蘭蘇格蘭ノ國王カ即位ノ際ノ玉座ナリシヲ千二百九十六年「エドワード」一世蘇格蘭ヲ攻略セシトキ之ヲ携ヘ歸リテ斯ク椅子

ニ納メシモノニシテ「ヤコブ」ハ此ノ石ヲ枕ニシテ所謂「ヤコブ」ノ夢ヲ見
タリト傳説ス平常ハ寺院ノ東端祭壇ノ後ナル「ヘンリー」七世ノ廟宇ニ
納メアリ

前掲寶器ニ裝嵌セル寶石ハ世ニ名高キモノ多シ中ニモ「アフリカ」ノ
星ト稱セラルルハ南亞弗利加ヨリノ獻品ニシテ重量五百「カラット」世
界第一ノ稱アリ今回始メテ十字章笏ノ頭飾ニ加ヘ戴冠式ニ用ヒラレ
タリ又王冠ニ嵌入セル「コー、イ、ヌール」金剛石モ前者ニ次ク大金剛石ナ
リ

由來有名ナル寶石ハ戰爭、虐殺、慘禍等不祥事件ノ發生ト關係アルヲ
常トセシカ此等寶石モ亦其例ニ洩レス元來大蒙古帝ノ孔雀王座ニ嵌
入セラレアリシカ燦然タル光輝ハ幾多罪惡ノ源トナリ之カ爲ニ王位
生命ヲ失ヒシ君主幾何ナルヲ知ラス千八百五十年ニ至リ始メテ之ヲ
Panjab 政府ヨリ「ビクトリア」女皇ニ獻上セルモノナリ

六月二十三日 金曜日 晴、後小雨アリ

(「シーフォード」ハウス御滞在)

倫敦市中巡幸

戴冠式ヲ終ラセラレタル 兩陛下ハ英國國民一般ヲシテ親シク龍
顔ヲ拜スルコトヲ得セシムル爲メ壯嚴ナル鹵簿ヲ以テ倫敦市ノ主ナ
ル街路ヲ巡幸セラレタリ

兩殿下ハ隨行員、接伴員ヲ從ヘ午前九時四十分旅館御發「コンスチチ
ユーシヨン、ヒル」ニ於ケル宮内省特設ノ棧敷ニ成ラセラル

服裝 殿下 正服

妃殿下 「モーニング、ドレス」

「コンスチチユーシヨン、ヒル」ニハ王宮側「ウエリントン」像ノ附近ニ
拜觀用棧敷ヲ設ケ外國參列員用ニ供セリ其位置王宮正門ヲ距ル
相當ノ距離ニアルヲ以テ王宮ヲ出テタル鹵簿ハ始メテ間斷ナク

行進ヲ續クルヲ以テ拜觀ニ絶好ノ所ナリ

午前十時三十分鹵簿ノ最先頭行進ヲ起シ午前十一時號砲一發

兩陛下ノ御出門ヲ報シ

兩陛下ハ八頭曳ノ馬車ニ召サレ印度及英

國近衛騎兵其前後ヲ警衛シ肅々巡幸ノ途ニ就カセラル

陛下ハ陸軍元帥服、

皇后陛下ハ薔薇及淡青色ノ裝飾アル白衣ヲ

召サレ青色駝鳥毛ノ飾アル白帽ヲ被ラレ御同乗アリ御馬車「コンスチ

チューシヨン、ヒル」ノ外國皇族席ニ近ツクヤ諸員ノ敬禮ニ對シ

兩

陛下ハ車上ニ起立セラレ御答禮アリタリ

(御答禮ノ町寧ナル一事ハ萬衆ノ注意ヲ喚起シ翌日ノ倫敦各

新聞ハ筆ヲ揃ヘテ 兩陛下ノ聖徳ヲ稱揚セリ)

鹵簿ノ編成ハ軍隊ヲ基幹トナシ海軍兵マテモ參加セシメタリ各國

大公使館附陸軍武官ハ騎乗シテ列中ニアリ

鹵簿ハ左記巡路ヲ經テ兩陛下ハ午後一時三十分王宮ニ還幸アリ沿

道ノ歡呼湧クカ如シ

Constitution Hill—Piccadilly—St. James's Street—
 * Pall Mall—Pall Mall East—* Trafalgar Square
 North Side—Duncan Street—* Strand—Fleet Street
 —Ludgate Hill—St. Paul's Church Yard—Cannon
 Street—Queen Victoria Street—Mansion House—
 King William Street—London Bridge—* Borough
 High Street—Borough Road—Westminster Bridge
 Road—Westminster Bridge—Bridge Street—
 St. Margaret Street—Round Parliament Square—
 Parliament Street—White Hall—Admiralty Arch—
 The Mall—Buckingham Palace.

鹵簿ハ右ノ内各區ノ主要ナル位置(*印)ニ於テ止マリ 兩陛下ハ

市民ヨリ捧呈スル頌辭ニ對シ車上ヨリ勅語ヲ賜ハリタリ

兩殿下ハ鹵簿「コンスチチューシヨン、ヒル」通過ノ後直ニ御歸館アリ

タリ

一九六

午後二時 兩殿下（殿下「フロックコート」、妃殿下「モーニングドレス」）ハ「コールブルック」卿及「ハルデーン」少將ノ案内ニテ乃木大將以下隨行員ヲ從ヘ當時開催中ノ「マリンビヤ、ホースシヨウ」ニ成ラセラレ皇族用棧敷ニ於テ各種馬匹ノ展覽及馬術ノ演技等御覽アリ約二時間ノ後御歸館アリ

午後八時十五分ヨリ外務大臣官邸ニ於テ外務大臣主催ノ晚餐アリ
兩殿下ハ東郷乃木兩大將ヲ從ヘ御參會アリ

服裝 兩殿下 十九日王宮晚餐ノ時ニ同シ

隨行員之ニ倣フ

此晚餐ニハ英國皇帝、皇后兩陛下臨御アリ參會者ハ戴冠式參列ノ外國皇族及特派大使ニノミ限リタルモノナリシカ日本ニ限リ隨行員タル東郷乃木兩大將案内ヲ受ケタリ

晚餐席ハ二十二人ノ長方形卓三個ヲ主位トシ其周圍ニ十名内外ノ圓形卓六個ヲ配置シアリ

殿下ハ Grand Duchess of Hesse ヲ導カレ外務大臣ト卓ヲ同ナシフセラレ 妃殿下ハ土耳其皇太子殿下ニ導カレ英國皇帝陛下ノ左側ニ御着席アリ東郷大將ハ單獨ニテ第九卓ニ乃木大將ハ單獨ニテ第八卓ニ就ケリ

此夜外務大臣ノ晚餐ニ案内ヲ受ケサル隨行員ハ接伴員「ウドロフ」大尉ノ案内ニテ「ライリック」劇場ニ觀劇セリ

英國皇帝陛下ハ戴冠式當日ニ於ケル大群集中ニ何等慘事ノ生セザリシハ警備宜シキヲ得タルモノトナシ當日勤務ニ服セシ警官ノ勞ヲ嘉賞セラレ記念章ヲ賜ハル旨勅命アリ又内務大臣ハ警官ニ三日間ノ増給ト休暇トヲ賜ハルコトヲ布告セリ

一九七

六月二十四日 土曜日 晴

一九八

(シーフォード、ハウス御滞在)

「スピットヘッド」観艦式

戴冠式附帶重要行事ノ一トシテ此日「スピットヘッド」ニ於テ大觀艦式ヲ舉行サレ皇帝陛下ノ御親閲アリ戴冠式參列外國皇族特派大使及隨行員陪觀ス

參列員ノ陪觀ハ其資格ニヨリテ乗船ヲ異ニシ

兩殿下ハ

御召艦 Victoria and Albert

東郷大將、谷口中佐ハ

供奉艦 Enchantress

乃木大將以下隨行員ハ

陪觀船 Plassy

ニ指定アリ

兩殿下ハ諸外國皇族ト共ニ十時三十分「ビクトリア」停車場發ノ御召列車ニテ倫敦御發、御召艦ニ御乗艦陪觀アラセラル

服裝 殿下 正服

妃殿下 「モーニング、ドレス」

隨行員ハ 兩殿下ノ服裝ニ倣フ

隨行員ハ外國隨行員ト共ニ午前八時十五分「ビクトリア」停車場發、ブラッシーニ乗船セリ、同船ハ式場内F線内ノ定位置ニ錨泊シ一行ハ船中ヨリ御親閲ヲ陪觀シ終テ同船ニテ艦列ノ間ヲ巡航觀覽シ午後九時倫敦ニ歸着セリ

觀艦式一般ノ概況左ノ如シ

式場ハ南海岸軍港「ボーツマス」ト「ワイト」島間ノ海峡海面ニ在リテ列線ノ方向ヲ約北西微西ヨリ南東微東トシ長サ約六哩、幅約二哩アリ參列艦船ハ此ノ内ニ大小各種ノ艦型ニ從ヒ北ヨリ順次ニX A B C D E F G H Kノ十列ニ碇泊セシメアリ其内D列及E列ハ英國最新型戰艦及巡洋艦ヲ以テ編成シF列ヲ外國參列艦用トシ御召艦ノ碇泊位置ハ

一九九

F列ノ約中央ニシテ觀艦式總指揮官「ムアー」大將ハ旗艦ヲ「ロード、ネル
ソン」トシ御召艦ノ北方E列ノ十二番錨地ニアリ

因ニ我鞍馬ハF列中九番錨地ニ在リテ御召艦(十一番錨地)ヨリ
第三位ニ利根ハ一番錨地ニ在リテ最東端ニ在リ又 兩殿下ノ御
乗船タリシ賀茂丸ハ陪觀船トシテH列ノ十九番錨地ニ在リ
參列外國軍艦左ノ如シ(F列ヲ順次ニ東方ヨリ)

國名	艦名	艦種	排水量	進水年
日本	利根	巡洋艦	四、一〇〇	一九〇七
亞爾然丁	Buenos Ayres	巡洋艦	四六三〇	一八九五
那威	Fidsvold	海防艦	四一七〇	一八九九
北米合衆國	Delaware	戰艦	二〇三〇〇	一九〇九
伊太利	San Marco	巡洋艦	九六八〇	一九〇八
埃匈國	Radetzky	戰艦	一四二三〇	一九〇九

獨逸	Von der Tann	巡洋戰艦	一九一〇〇	一九〇九
露西亞	Rossia	巡洋艦	一二二〇〇	一八九六
日本	鞍馬	巡洋艦	一四六二〇	一九〇七
佛蘭西	Danton	戰艦	一八〇〇〇	一九〇九

此間ニ御召艦錨地アリ

智利	Chacabuco	巡洋艦	四五〇〇	一八九八
和蘭	Jacob van Heemskerck	巡洋艦	四九二〇	一九〇六
清國	海圻	巡洋艦	四三〇〇	一八九八
丁抹	Olfert Fisher	海防艦	三五九〇	一九〇三
土耳其	Hamidieh	巡洋艦	三八三〇	一九〇三
西班牙	Reina Regente	巡洋艦	五七八〇	一九〇六
瑞典	Fylgia	巡洋艦	四七三〇	一九〇五
希臘	Georgios Averoff	巡洋艦	九六八〇	一九一〇

此内米國ノ「デラウエーア」ハ最新弩級戰艦ニシテ米國海軍獨特ノ艦型ヲ備ヘ群ヲ抜キテ衆目ヲ惹ケリ

參列英國艦艇ヲ類別スレハ左ノ如シ

戰艦	三十二隻	五二四〇〇噸
裝甲巡洋艦	二十五隻	三二八〇〇噸
其他ノ小艦	二十一隻	九二〇〇噸
驅逐艦	八十九隻	五六四〇噸
水雷艇		
計	百六十七隻	一〇〇〇四〇噸

而シテ此等ハ英本國附近ニアル艦隊ノ集合セシニ過キヌ之ノ英國艦隊ヲ一八八七年觀艦式ノ百三十五隻、一八九七年ノ百六十五隻、五十餘万噸、一九〇二年ノ百二十隻ニ比スレハ今回ノ觀艦式ハ更ニ一進歩ヲナセシモノニシテ一九〇二年觀艦式ニ參列セシモノニシテ今回再ヒ參列セルモノハ僅カニ八隻五萬八千餘噸ニ過キヌ即チ英海軍ハ十

年間ニ全然面目ヲ一新シ百萬噸ノ海軍ヲ新造セルモノト謂フヘシ

參列艦隊ハ當日正午總指揮官ノ令ニ依リ滿艦飾ヲ行ヒ 兩陛下

ノ着御ヲ待テリ午後零時三十分 兩陛下「ポーツマス」停車場ニ御着

直ニ御召艦ニ御乘艦アリ「ポーツマス」市長頌辭ヲ捧呈シ 陛下ハ市

ノ發達ヲ喜ハセラルル旨勅語ヲ賜ハル終テ御召艦ハ行進ヲ起シ式場

ニ進入セリ其序列ハ水雷艇四隻先導シ Trinity House Yacht (御召艦ノ

水路嚮導ヲナス舊慣ニヨル) Irene 之ニ次キ其次ニ御召艦ハ前橋ニ

Admiralty 旗、大橋ニ皇帝旗、後橋ニ「ユニオン」旗ヲ掲ケテ進ミ Alexandra

Enchantress Fire Queen 供奉シ最後ニ水雷艇四隻隨行セリ

同一時二十五分御召艦式場ニ近ツクヤ艦隊ハ總指揮官旗艦ニ倣ヒ

登舷禮式ヲ行ヒ二十一發ノ禮砲ヲ行フ百數十ノ參列艦ヨリ發スル禮

砲ハ天ニ轟ロキ砲煙濛々海ヲ掩ヒ壯觀ヲ極ム

御召艦ハ式場ノ東端ヨリF列トE列ノ間ヲ西航シ式場ノ西端ニ達シ

之ヨリ右轉反針シD列E列間ヲ東航シ再ヒ右轉シテF列G列ノ間ヲ通航シテF列ノ豫定錨地ニ投錨セリ

御召艦ノ艦列通過ノ際 陛下ハ海軍元帥ノ制服ヲ召サレ雙眼鏡ヲ手ニシテ艦橋ノ一段高キ處ニ單獨ニテ立タセ給ヒ各艦ノ敬禮ニ對シテ一々答禮アリタリ

(註) 一、陛下ノ位置ヲ特ニ一段高キ所ニ設ケアリシヲ以テ遠距離ニアル參列艦艇ニアルモノモ能ク 陛下ヲ拜スルヲ得タリ

二、供奉艦ニハ一切外國人ノ乗艦ヲ許ササリシカ東郷大將、谷口中佐ニ限り特ニ許サレタリ

御召艦投錨後、參列艦隊司令長官以下將官及外國參列艦ノ司令官、艦長ハ御召艦ニ伺候拜謁アリ 陛下ハ總指揮官ニ勅語ヲ賜ハル、午後五時二十分御召艦ハ拜謁諸官ヲ乗セタル儘拔錨シEF列間ヲ東航シ

テ「ボーツマス」ニ歸港ス御召艦拔錨行進ヲ起ストキ各艦ノ奉送儀式臨御ノ時ニ同シ五時四十三分禮砲ヲ發シ觀艦式ヲ終ル、參列諸員ハ御召艦ヲ退船シテ倫敦ニ歸レリ

兩陛下ハ此夜御召艦ニ御一泊アリ

艦隊ハ午後九時五十三分ヨリ午後十一時迄電燈艦飾ヲ行ヘリ

兩陛下ハ此夜海軍工廠ニ御上陸アリ廠内ノ信號塔上ヨリ艦隊ノ電燈艦飾ヲ觀覽アリタリ

六月二十五日 日曜日 晴後雨

(シーフォードハウス御滞在)

此日英國皇帝、皇后兩陛下ハ「ボーツマス」軍港ノ對岸「カウス」(Cowes)ニ御滞在アリ、倫敦ニ滞在セル外國皇族及特派大使並ニ其隨行員ニ「ウインザー」王宮觀覽ヲ許サレ來賓接待ノ爲メ左記諸員ヲ「ウイン

ザーニ特派セラル

1106

Duchess of Devonshire (Mistress of the Robes)

Viscount Esher (Deputy Constable and Lieutenant—

Governor of the Windsor Castle)

兩殿下(殿下)「フロックコート」、妃殿下(旅行服)ハ隨行員、接伴員ヲ從ヘ午後二時二十五分「バツデイングトン」停車場發ノ宮廷用臨時列車ニテ二時五十分「ウインザー」ニ御着アリ諸他外國參列員同乗ス

停車場ヨリ直ニ觀覽者一同ト共ニ王宮ニ成ラセラレ接伴員ノ案内ニテ宮城内各部御巡覽アリ王宮ハ觀覽者ノ爲ニ開放シアリテ所々ニ説明者ヲ配置シアリタリ 兩殿下ハ御巡覽終リテ王宮内ノ設ケノ席ニテ茶菓ノ饗應ヲ受ケサセラレ四時四十五分倫敦ヨリ差廻シ置キタル自動車ニテ午後五時五十分御歸館アリタリ歸途小雨アリシ爲メ「ウインザー」倫敦間坦々堵ノ如キ大路ノ自動車ノ駛走及觀望意ノ如クナ

ラス

午後八時加藤大使同夫人ヲ晚餐ニ召サル隨行員一同モ亦此席ニ陪ス

本日、米、佛、獨、埃、以、露各國大公使ハ各其大公使館ニ於テ其國ヨリ參列ノ皇族若ハ特派大使ヲ主賓トシ大晚餐會ヲ催セシカスル場合ニハ英國側ノ名族貴紳ハ各國ノ大公使館ニ招待サレテ分散シ之ヲ網羅シテ盛會ヲ極ムルコト能ハサルト場所ノ都合惡シキトニヨリ本邦大使ノ晚餐日ハ特ニ此日ヲ避ケタリ

六月二十六日 月曜日 半晴

(シーフォードハウス御滞在)

午後一時三十分「ランスダウンハウス」ニ於テ「ランスダウン」卿同夫人ノ午餐會アリ 兩殿下參會アラセラル、隨行員中東郷、乃木兩大將、清河

二〇七

武官宮岡御用取扱モ招待ヲ受ケ參會ス

服裝 殿下 「フロックコート」

妃殿下 訪問服

隨行員ノ服裝 兩殿下ニ倣フ

本日ノ午餐ニ於テ 兩殿下ハ主賓ニアラセラレ陪賓トシテ參會者ノ主ナルモノ左ノ如シ

Prince and Princess George of Greece.

Duke and Duchess of Beaufort

Duke of Marlborough

Lord and Lady Roberts

Mr. and Mrs. Austin Chamberlain.

此日愛兒戰沒ノ爲メ後繼ナキ乃木大將ト「ロバート」元帥夫人ノ兩人期セスシテ相隣リテ食卓ニ就キ談偶々愛兒戰死ノコトニ及ヒシハ大ニ衆目ヲ惹ケリ

午後八時三十分ヨリ「コベント、ガーデン」ニ於テ勅命演劇アリ 兩殿下參會アラセラル隨行員中東郷大將、乃木大將、戸田式部長官、宮岡御取扱、渡邊式部官招待ヲ受ケテ參會ス

服裝 (二十日晚餐ニ同シ)

殿下ハ正服、妃殿下ハ「デコルテー」帶動

隨行員ノ服裝ハ 兩殿下ニ倣フ

午後十時三十分ヨリ「グロブナー、ハウス」(Grosvenor House) ニ於テ

Duchess of Westminster ノ舞踏會アリ外國皇族多數參會ス 兩殿下モ御

參會アリ隨行員亦參會ス食事ノ時同伴者左ノ如シ

殿下 Princess Militza of Montenegro

妃殿下 Grand Duke Boris of Russia

東郷大將 Countess Grosvenor

此日東郷、乃木兩大將ハ午前「ハルデー」少將「ウッドロフ」大尉ノ案内

ニテ陸海軍俱樂部ヲ視察ス、戴冠式公式行事終リタル後英國陸軍省ハ乃木大將ニ「ウッドロフ」大尉ヲ專屬接待セシムル旨通知アリタリ
英國皇帝、皇后兩陛下ハ本日「カウス」ヨリ倫敦ニ還幸アリ夜「コベント、ガーデン」勅命演劇ニ臨御アリタリ

本日ハ倫敦交際社會ノ中心タル人々カ外國皇族ヲ午餐ニ招待スル豫定ノ日ニシテ開催アリシ主ナル午餐會左ノ如シ

一、 Lord and Lady Londonderry 主催

主ナル 露國 Grand Duke Boris Vladimirovitch

來賓 西班牙 Infante Don Fernando

希臘 Crown Prince and Princess

二、 Lord and Lady Londesborough 主催

主ナル 「ルーマニア」 Crown Prince and Princess

來賓 土耳其 Hereditary Prince Yussuf Effendi

丁 抹

Crown Prince

三、 Lord and Lady Cadogan 主催

主ナル「モンテネグロ」 Prince Danilo and Princess Miliza

來賓「ババリア」 Prince Rupprecht

本年二月末以來ウエストミンスター寺院ハ戴冠式準備ノ爲メ閉鎖シ一般ノ觀覽ヲ許サザリシカ本日始メテ公衆ノ縱覽ヲ許セリ

六月二十七日 火曜日 晴

(シーフォードハウス御滞在)

午後一時四十五分「アプスレー、ハウス」(Apsley House)ニ於テ Duke of Wellington ノ午餐會アリ 兩殿下ハ東郷大將、乃木大將、戸田式部長官、宮岡御用取扱ヲ從へ御參會アリ
服裝 殿下 「フロックコート」

妃殿下 訪問服

隨行員ノ服裝ハ 兩殿下ニ倣フ

午後四時「バッキナム」王宮ニ於テ 兩陛下ノ大園遊會アリ 兩殿下御參會アリ(服裝午餐ノ時ニ同シ)

隨員高等官以上全部召サレ參會ス

兩陛下ハ 皇太子、皇子、内親王殿下ヲ從ヘ園内御巡歩アリ次テ玉座 Royal tent) ニ着カセラル 陛下ハ東郷大將及乃木大將ヲ召サレ「ウドロフ」大尉ノ通譯ニテ 陛下ハ觀艦式ノ際我艦隊ノ整備セルニ御感アリシコト又兩大將ノ日本ニ歸朝後ト雖トモ英國ニ對シテ長ク好記念ヲ保タンコトヲ望マセラル、旨御沙汰アリ 兩陛下ニハ會ノ終リニ際シ出口ノ途ニ立タセラレ各國皇族及代表者ノ隨員ハ列ヲナシテ其ノ御前ヲ通り 兩殿下ニハ一々握手ヲ賜ハリ一同ノ告別ノ意ヲ受ケサセラル本日此園遊會ニ召サレタルモノ約六千人ナリト謂

フ

午後八時三十分ヨリ「ヒズマゼスチー」 His Majesty 劇場ニ於テ勅命演劇アリ

兩殿下ハ東郷大將、乃木大將、戸田式部長官、宮岡御用取扱ヲ隨ヘ御參會アリ

服裝 (二十六日夜ニ同シ)

殿下 正服、妃殿下 「デコルテー」帶勳

隨行員ノ服裝ハ兩殿下ニ倣フ

午後十一時ヨリ Earl of Derby ノ夜會アリ外國皇族多數參會ス

兩殿下ハ觀劇ニ隨行ノ諸員ヲ從ヘテ御參會アリ殘リノ隨員(高等官以上)モ亦參會ス

兩殿下ノ 兩陛下ニ謁セラルルハ本日ノ觀劇ヲ以テ最後トシ別ニ告別參内等ノ事行ハレサルヲ以テ此夜劇場ニ於テ 兩殿下ハ

兩陛下ニ御告別アリ 兩陛下ヨリ懇篤鄭重ノ御沙汰アリタリ此夜
觀劇ニ招待ヲ受ケサル隨行員ニ對シテハ接伴員ヨリ他ノ劇場ニ案内
アリシモ連日ノ疲勞ニテ參會セス

此日東郷、乃木兩大將、谷口、吉田兩中佐ハ「ウッドロフ」大尉ノ案内ニテ癩
病院及「チエルシー」病院ヲ視察ス

六月二十八日 水曜日 晴

(シーフォードハウス御滞在)

本日ヲ以テ英國皇室ハ諸外國參列員ニ對スル國賓トシテノ待遇ヲ
終止ス外國皇族ノ多數ハ本日倫敦ヲ退去セリ

外國皇族退京ノ際儀式ヲ用ヒサルコト入京ノ時ニ同シ但シ同一
停車場ヨリ一時ニ五六名出發アル場合ニハ「コンノート」殿下停車場
ニ御見送アリタリ

午前十時三十分「シーフォードハウス」ニ帝室御用寫眞師「ダウネー」ヲ聘
シ 兩殿下ハ隨行員接伴員ト共ニ記念寫眞御撮影アリ(一行正服)
午後一時接伴員隨行員ヲ御陪食ニ召サレ午餐ノ後午後二時英皇室
ノ馬車ニテ「シーフォードハウス」ヲ御退去アリ「ブルック」街 (Brook Street) 「ク
ラリッジ、ホテル」 (Claridge's Hotel) ニ御移轉アリ隨行員一同皆同旅館ニ
移ル

(因ニ記ス) 同旅館ハ倫敦第一流ノ旅館ニシテ此旅館ニ於ケル宴
會ニ限リ英國皇族ハ公式ニ臨マルノ慣例ナリト謂フ

御旅館「シーフォードハウス」御退去ノ際接伴員一同ニ御下賜品アリ又
同館ノ雇人及御用宮内省馬車雇員ニ對シ金員ノ御下賜アリタリ

(因ニ記ス) 「シーフォードハウス」雇人及馬車雇員ニ金員御下賜ニ就
テハ始メヨリ英國宮内省ヨリノ注意アリテ接伴員ト協議ノ上決
定シ接伴員ニ交付セリ

午後八時加藤大使同夫人晚餐會ヲ「クラリッジ、ホテル」ニ開キ 兩殿下ノ御臺臨ヲ仰ケリ「アーサー、コンノート」殿下御參會アリ又英國人側ニテハ首相「アスキス」、同夫人外務大臣「グレイ」及國務大臣數名「シーモア」海軍元帥及主ナル海軍將官並ニ日本海軍ニ縁故アル將官「ニコルソン」陸軍元帥及主ナル陸軍將官戴冠式式典總裁「ノーフォーク」公「ノーリス」卿宮内省ノ主ナル職員並ニ 兩殿下ノ接伴員本邦人ニテハ隨行員一同ノ外島村司令長官鞍馬利根艦長等參會シ晚餐後ノ夜會ニハ内外人二千餘名招待ヲ受ケ參會シ英國人側ハ殆ント朝野ノ名士ヲ網羅シ「ホテル」内立錫ノ地ナク盛大ヲ極メタリ

英國皇帝ハ本日「ノーウイッチ」ノ農事展覽會ニ臨幸アリ即日倫敦ニ還幸アリタリ

六月二十九日 木曜日 半晴

(「クラリッジ、ホテル」御滞在)

兩殿下ハ元ト御駐英當時ノ教師「バス」夫妻ヲ午餐ニ召サル

午後四時元本邦駐劄白國公使「ダヌタン」夫人御旅館ニ伺候ス

午後七時三十分 兩殿下殿下燕尾服ニ帶動、妃殿下「デコルター」ハ東郷大將以下隨員ヲ隨ヘ「メトロポール、ホテル」ニ於ケル日本協會晚餐會ニ成ラセラル、同協會ハ日英親交ノ増進ヲ目的トスル團體ニシテ知名ノ英國人及在英日本人ヨリ成リ年々一回大晚餐會ヲ催スモノナリ本年ハ 兩殿下東郷、乃木兩大將ノ渡英アリシヲ機トシ特ニ大會ヲ本日ニ撰定セリ當日ハ同會未曾有ノ盛會ニシテ多數ノ臨時入會申込者アリ同「ホテル」内ノ都下第一ノ大食堂ハ滿員ノ盛況ヲ呈セリ

當夜食事後左ノ式辭アリ

加藤大使口演ノ要旨次ノ如シ

英國皇帝陛下ノ德望高ク仁慈ノ心深クアラセラルルハ今更喋々ヲ

要セサル所ナリ去週戴冠ノ大典アリ其儀式ノ莊嚴ニシテ盛大ナル且ツ無限ノ感動ヲ人心ニ與ヘタル此國ニシテ始メテ見ルヲ得ヘク英國民ハ其本國ニアルト海外殖民地ニアルトヲ問ハス齊シク欣喜雀躍シテ陛下ノ御代ノ長久ヲ謳歌セサルハナシ獨リ英國臣民ノミナラス各國々民亦タ共ニ其喜ヲ頌タサルナキモ眞ニ誠意誠心之ヲ慶賀セシモノハ世界廣シト雖モ蓋シ我日本帝國 天皇陛下ノ臣民ヲ凌駕スルモノアラサルヘシ而シテ又タ我 御名代宮東伏見宮兩殿下ニ對スル英國皇室及臣民ノ歡待頗ル盛ナリシハ余ノ大ニ感動スル所ナリ此大典ニ列セラレ英國臣民ノ感想相融合スル状態ヲ目睹サレタル我宮兩殿下ハ御歸朝ノ後ニ之ヲ我 天皇陛下ニ御物語アルコトヲ確信ス謹テ英國皇帝ノ聖壽ヲ奉祝ス

口演終リテ會衆一同起立シ大使ノ高唱セル「キング」ノ聲ト共ニ杯ヲ舉ケ同時ニ英國々歌ヲ奏ス次ニ英國大使「サー、クロード、マクドナルド」

我 天皇陛下ノ聖德ヲ頌シ陛下ノ御代ニ於テ日本國ノ文華燦然トシテ發揮シ今ヤ列強ニ比肩シテ遜色ナキヲ述ヘ我 陛下ノ萬歲ヲ祝ス會衆之ニ和シテ杯ヲ舉ケ同時ニ君カ代ノ吹奏アリ次ニ「テームスデール」前倫敦市長ハ立チテ 兩殿下ノ御健康ヲ奉祝ス之ニ對シ依仁親王殿下ハ左ノ要旨ヲ英語ニテ述ヘサセラル

余ノ到着以來獨リ皇室ノ優渥ナル待遇ヲ受ケシノミナラス到ル處英國官民ノ好遇ヲ受ケシハ余ノ最モ満足スル所ニシテ此愉快ハ永ク忘ル、能ハサルヘシ殊ニ今夕ハ同盟國タル日英ノ親交ヲ増進スルニ最モ力アル日本協會ノ招待ヲ受ケタルハ余及妃ノ感激スル所ニシテ諸子ノ厚意ヲ深謝ス此ノ如キ厚情ハ日英兩國ニ存セル友誼ノ表示ニシテ此事タルヤ永久余ノ記憶ニ新ナルヘシ

此ノ御口演終ルヤ會衆ハ歡呼喝采セリ

(因ニ記ス)御口演ノ要領ハ翌日ノ「タイムス」新聞其他ニ掲載シ日英

親交ノ徵象ナルヲ歡ヘリ

次ニ「ドグラス」海軍大將ハ東郷乃木兩大將ニ對スル歡迎辭ヲ述ヘ「沈黙東郷ナル新聞紙ノ新語ニ就テ沈黙ノ價值ヲ述ヘ東郷大將ヲ稱讚シテ大ニ會衆ノ喝采ヲ博セリ」之ニ對シテ東郷大將ハ立ツテ簡單ナル謝辭ヲ述ヘタリ次ニ市長「ストロング」氏ハ日本協會ノ盛運ヲ祝シ之ニ對シテ協會評議員「クリュードソン」答辭ヲ述ヘ最後ニ日本協會副會頭ハ加藤大使同夫人ノ健康ヲ祝シ加藤大使ハ再ヒ立ツテ謝辭ヲ述ヘ併セテ本日英國皇帝ノ倫敦行幸ニ就キ終日煩劇ヲ極メタル市長カ老軀ヲ厭ハスシテ今夕來臨アリシヲ謝シテ午後十一時ニ散會セリ

本日渡邊宮内大臣ヨリ 宮殿下ニ左ノ電報アリ

帝室御用御都合アラセラルルニ付戴冠式ニ關スルコト終了次第速ニ印度洋ヲ經テ御歸朝アラセラルベキ旨 聖旨ヲ奉シ其旨申上

グ

右ニ對シ 宮殿下ヨリ渡邊宮内大臣ニ左ノ親電ヲ發セラル

最近ノ便船賀茂丸ニテ當地發歸朝ス此旨言上ヲ乞フ

此日英國皇帝、皇后兩陛下ハ皇太子殿下、メリー「内親王殿下ト御同乗午前十一時三十分」バッキナム「王宮御出門」セントポール「寺院ニ於テ」ロンドン「僧正ノ勸行スル感謝禮拜式ニ臨幸アリ終テ」ギルドホール「ニ臨幸アリ倫敦市長主催ノ午餐ニ臨御ノ後倫敦東部市街御巡幸ノ後王宮ニ還幸アリタリ又皇帝陛下ハ戴冠式完了ニ就キ國民一般ニ對シテ此大典ニ方リ陛下ハ英國國民一般カ陛下ニ對シテ忠誠至親ノ情ヲ遺憾ナク發露セルヲ嘉ミセラレ國民ト共ニ努力勉勵シテ天職ヲ完ウセンコトヲ期セラルル旨ノ勅語ヲ發セラレタリ

海軍一般ニ對シテハ觀艦式ニ於ケル艦隊整備ノ狀況ヲ閱覽アリ嘉賞アラセラルル旨ノ勅語ヲ發セラレタリ

六月三十日 金曜日 半晴、後雨

(クラリッジ、ホテル御滞在)

正午 兩殿下ハ「ダヌタン」夫人ヲ午餐ニ召サセラレ宮岡御用取扱ニ御陪食仰付ラル

午後四時 兩殿下「殿下」フロックコート「妃殿下」ビジツチングドレスハ東郷大將以下隨員ヲ隨ヘ「リーゼント」公園ニ於テ在倫敦日本人會ノ開催セル園遊會ニ成ラセラル園内ニ於テ茶菓ノ饗應アリ又餘興トシテ本邦人ノ曲藝演舞等アリ在英日本人多數ノ參會者アリシモ開會後少雨アリシ爲メ豫期ノ盛況ニ至ラサリシハ遺憾ナリ英國大使「サー、クロードマクドナルド」及遣英艦隊鞍馬、利根兩艦ノ將校モ多數參會セリ 兩殿下ハ園内御巡覽御少憩ノ後御歸館アリ

兩殿下御晚餐後、渡邊式部官、清河武官、宮岡御用取扱ヲ隨ヘ「アデルフィ」(Adelphi) 劇場ニ成ラセラレ (Quaker Girl) ヲ御覽アリタリ

二三三

(因ニ記ス)本日以後 兩殿下ノ御觀劇ハ當時倫敦ニ於テ開催中ノ最モ有名ナルモノヲ選ハレタリ即チ之ヲ以テ英國國民嗜好ノ傾向ト當時一般ノ國風ヲ御視察アル爲メ各種ノ劇ヲ彼此配合シテ御觀覽アラセラレタリ

本日英國海軍省ハ特ニ「ダングラス」少將ニ東郷大將專屬接伴員ヲ命セリ

東郷大將ハ本日大將ノ幼時存學セシ「ウールスター」(Worcester) 年例晚餐會ニ出席シ歡迎ヲ受ケタリ

乃木大將ハ「ウッドロフ」大尉ノ案内ニテ「イートン」(Eton) 學校ヲ視察セリ

此日午後英國皇帝陛下ハ「クリスタル、バレース」ニ於ケル兒童饗應會ニ臨幸アリタリ倫敦附近ノ小學校男女生徒ハ約六千有餘ノ教員ニ引率セラレ來集セルモノ數十萬ニシテ此生徒ヲ輸送スル爲メ特別列車

二三三

九十六ヲ要セリト謂フ兩陛下ハ參集セル兒童ニ辨當ヲ賜ヘリ
此夜英國皇帝、皇后兩陛下ハ首相「アスキス」邸ノ晚餐ニ臨御アリ

七月一日 土曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午前 兩殿下御在館アリ

午後 兩殿下ハ「デリー」(Daly's) 劇場ニ成ラセラレ Count of Invern-

berg ヲ御覽アリ渡邊式部官、清河武官、宮岡御用取扱隨從ス觀劇ノ後

兩殿下ハ渡邊式部官ヲ隨ヘ日英博覽會場跡ニ於テ開催中ノ戴冠式記念博覽會ヲ御覽アリタリ

東郷、乃木兩大將ハ「ハイドパーク」ニ於テ少年義勇隊ヲ檢閲セリ「キッチナー」
「バーデンパウエル」兩將軍兩大將ヲ案内シ乃木大將ハ少年義勇兵ニ對シ邦語ニテ簡單ナル演說ヲナセリ

此夜「メトロポール、ホテル」ニ於テ東郷大將ヲ主賓トスル海軍俱樂部ノ晚餐會アリ英國知名ノ海軍將官殆ド全部參集シ「シーモア」海軍元帥之ヲ主宰シ晚餐後熱誠ナル乾杯辭アリ東郷大將一場ノ英語演說ヲナセリ

此夜乃木大將ハ「ハイドパーク、ホテル」ニ晚餐會ヲ開キ主ナル英國陸軍將官及在英日本陸軍將校ヲ招待セリ

此日午後豫定ノ如ク英國皇帝、皇后兩陛下ハ倫敦ヨリ「ウィンザー」王宮ニ臨幸アリタリ

七月二日 日曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午前九時 兩殿下(畧装)ハ「テームス」上流ノ風光御賞覽ノ爲御旅館御發「メーデンヘッド」(Maiden Head) ニ成ラセラレル、戸田式部長官、渡邊式部

官以下隨員宮岡御用取扱事故不參三輛ノ自動車ニ分乗シ之ニ從フ一行ハ「テームス」上流「メーデンヘッド」スキンドルスホテル」(Skindle's Hotel)ニ於テ舟遊ノ爲メ持ニ艤裝セル汽船 (Royal) 號ニ乘リ兩岸ノ風光ヲ賞シツ、テームス」ノ緩流ヲ溯航シ Great Marlow ヲ經テ Maiden Head ノ上流十五哩ナル「ヘンレー」(Henley) ニ到リ退船シ少憩ノ後陸路差廻シ置キタル自動車ニテ倫敦ニ歸着セリ當日天候稍冷涼ニ過キ風アリシ爲「テームス」ハ未タ多數遊船ヲ見ルノ盛況ニ至ラサリシモ夏季全都ノ倫敦士女ヲ樂マシムル「テームス」舟遊設備ノ一斑ヲ視察スルヲ得タリ

兩殿下倫敦御着後直ニ山座大使館參事官ノ私宅ニ成ラセラレ參事官同夫人ノ晚餐ニ臨マセラレ隨員一同陪席ス

乃木大將吉田中佐ハ此日ヨリ 兩殿下ノ一行ニ別レ倫敦出發歐洲大陸旅行ノ途ニ上リ先ツ佛國ニ向ヘリ

七月三日 月曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午後 兩殿下ハ宮岡御用取扱ヲ從ヘ「ラックスフォード」街ノ「ハロッツ」商會ニ成ラセラレ店内御覽アリ

夜加藤大使同夫人大使館ニ於テ小晚餐會ヲ開キ 兩殿下ノ御臺臨ヲ仰ケリ隨員一同陪席セリ

七月四日 火曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午前 兩殿下御在館アリ午後 妃殿下ハ清河武官宮岡御用取扱ヲ隨ヘ自動車ニテ倫敦東部商買櫛比スル部分ヲ御覽ノ後「ロンドン、タワ」ニ成ラセラレ城内ニ收藏セル寶什ヲ御覽アラセラレタリ

午後八時御旅館「クラリッジ」ニ於テ左記諸員ヲ召サレ晚餐ヲ賜ハル

服裝 男子燕尾服勳章(副章)佩用、婦人「デコルテ」

加藤大使、同夫人、同令嬢、山座參事官、同夫人、芳澤書記官、古谷書記官、同夫人、井出海軍大佐、稻垣騎兵大佐、坂田總領事、齋藤海軍中佐 Lord Colebrook、同夫人 Rear-Admiral Dundas、同夫人、Brigadier-General Haldane、Captain Woodroffe、同夫人及隨行員高等官以上

首相「アスキス」、同夫人ハ明五日午後四時三十分 兩殿下ノ御訪問ヲ受ケタキ旨秘書官ヲ以テ照會アリタリ(妃殿下「アスキス」夫人ト御會見ノ約アリシニ依ル)

七月五日 水曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午後一時御旅館「クラリッジ」ニ於テ左ノ諸員ヲ召サレ午餐ヲ賜ハル

服裝 男子「フロックコート」 婦人訪問服

柴田大使館書記官 廣田書記官、同夫人 徳川書記官、同夫人 小村書記官、同夫人 正木海軍中佐 重村海軍機關中佐 巽孝之丞(正金銀行支店長)、同夫人 渡邊專二郎(三井物産會社支店長)、同夫人 磯村豊太郎(三井物産會社員)、同夫人 根岸練次郎(郵船會社支店長) 深野志摩(郵船會社支店員)、同夫人 志保井重要(高田商會支店長)、同夫人 渡邊千冬 雪野銳二郎 九條男爵 岩倉具明 藤田大使館書記生、岸大使館書記生(此二人ハ特ニ召サレ陪食ヲ許サル)

午後四時三十分 兩殿下ハ總理大臣「アスキス」同夫人ヲ其官邸ニ御訪問アリ少時御懇談ノ後御歸館アリタリ

午後六時三十分加藤大使令嬢ヲ晚餐ニ召サレ食後 兩殿下ハ「ゲリック」(Garrick) 劇場ニ成ラセラレ Kismet ヲ御覽アリタリ

七月六日 木曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午前 兩殿下御在館アリ午後 兩殿下ハ清河武官ヲ隨ヘ「リーゼン
ト」街ニ成ラセラレ二三ノ商舖御巡覽アラセラレタリ
午後六時三十分山座參事官夫人ヲ晚餐ニ召サル食後 兩殿下ハ「ゲ
イテイー」(Gaiety) 劇場ニ Peggy ヲ御覽アラセラレタリ
此夜東郷大將ハ「クラリッジ、ホテル」ニ於テ晚餐會ヲ催フシ加藤大使、同
夫人「シーモア」元帥其他英國知名ノ海軍將官及本邦海軍將校ヲ招待
セリ

七月七日 金曜日 晴

(クラリッジ、ホテル御滞在)

午前九時三十分ヨリ 妃殿下ハ藤原海軍中佐、同夫人ノ御案内ニテ
National Gallery ニ成ラセラレ英國著名ノ繪畫ヲ御覽アリ午後一時御歸

館アリ午餐後再ヒ藤原中佐、同夫人ノ御案内ニテ Kensington Museum ニ

成ラセラレ各部御巡覽ノ後御歸館アリ

加藤大使夫人、同令嬢、藤原海軍中佐、同夫人 兩殿下ノ御喫茶ニ召サ
ル

殿下ハ渡邊式部官、高田商會員志保井重要ヲ從ヘ二三ノ商舖御巡覽
アラセラレタリ

午後七時戸田式部長官ヲ晚餐ニ召サレ食後「クリスタルパレー」ニ
成ラセラレ少時間ノ後御歸館アリタリ

加茂丸復航中寄港地發着豫定日割

地名 着 發

倫敦 七月八日午前

馬耳塞 七月十五日午後

坡西士 七月廿一日午前 着後直チニ發

蘇士	運河ノ都合ニテ豫定ナシ	七月廿二日午前
古倫母	八月二日午前	八月二日午後
新嘉坡	八月九日午前	八月十日午後
香港	八月十六日午前	八月十七日午前
神戶	八月廿二日午後	

七月八日 土曜日 晴

午前八時三十分 兩殿下(略装)ハ渡邊式部官、清河武官、岩波侍醫補、宮岡御用取扱以下隨員ヲ從ヘ「クラリッジ」旅館御發「リバプール」停車場ニ成ラセラレ九時十分發汽車ニテ倫敦ヲ辭セラル加藤大使、同夫人及大使館員、駐英海陸軍武官其他主ナル在留本邦人、英國大使「サー、クロード、マゴドナルド」竝ニ御滯在中ノ接伴員「コールブルック」卿ハ公務不參奉送セリ

九時四十分「テームス」下流「アルバート、ドック」停車場御着、直ニ繫留ノ賀茂丸ニ召サル船中ニテ奉送諸員ト杯ヲ舉ケラレ船ハ十時十八分解纜「ドック」ヲ出テ 兩殿下ハ茲ニ英國ヨリ御歸朝ノ途ニ就カセラル
往航ノ際ハ隨員十四名ナリシカ東郷、乃木兩大將、戶田式部長官等ノ一行ハ許可ヲ得テ別路歸朝ノ途ニ上リ今ヤ減シテ左記七名トナレリ

- 式部官 渡邊直達
- 皇族附武官 清河純一
- 侍醫補 岩波節治
- 御用取扱 宮岡慶子
- 家扶 仁羅山勝太郎
- 宮内屬 時岡茂弘
- 侍女 田中益枝

郵船會社ヨリノ特派接伴員雪野銳二郎再ヒ御同船ス

歸朝ノ途ニアル古谷大使館書記官夫妻及小兒御同船ス

船ハ「テームス」河口ヲ出テ午後〇時三十分水先案内退船午後六時四十九分「ダンジネス」ヲ航過シテ英國南岸ニ沿ヒ西航ス午後九時「イーストボーン」沖ニアリ海上濛氣アルモ平穩ナリ

七月九日 日曜日 晴

前日ニ同シク英海峡ヲ西航ス海上平穩ニシテ南東ノ輕風アリ

正午位置

西經 四度十分

北緯 四十九度六分

航程三百二十浬 馬耳塞迄千六百七拾六浬

午後四時三十分南西ノ針路ヲ採リテ佛國「ウーシヤン」岬沖ニ向フ

七月十日 月曜日 晴

船ハ依然南西ノ針路ヲ採リテ「ビスケー」灣ヲ航行ス海上靜平ナリ

正午位置

西經 八度二十五分

北緯 四十四度四十三分

航程三百十五浬 馬耳塞迄千三百五十九浬

午後九時五分「ビスケー」灣ヲ航過シ西班牙ノ北西角「フィニスタ」岬沖ニ達ス

七月十一日 火曜日 晴

船ハ葡萄牙沖ヲ南航ス海上濛氣アリ

正午位置

西經 九度三十分

北緯 三十九度三十四分

航程三百十四哩 馬耳塞迄千三十九哩

午後三時三十分リスボン沖ヲ同十一時セント、ビンセント沖ヲ航過シテジブラルターニ向フ本日汽船ニ逢フコト多シ其數三十八隻ヲ算セリ

倫敦出發以來 兩殿下御健康ニ被爲渡

七月十二日 水曜日 半晴

午前十一時三十分船ハ「トラファルガー」沖ヲ航過ス

正午位置

西經 六度一分

北緯 三十六度二分

航程二百七十三哩 馬耳塞迄七百二十七哩

午後一時三十六分「ジブラルター」海峡ヲ通過シテ地中海ニ入ル午後東南東ノ風起リ稍強シ

七月十三日 木曜日 晴

船ハ西班牙南西岸ヲ周航シテ馬耳塞ニ向フ午前八時四十九分西班牙「カルタジナ」沖ヲ航過シテ「バリアリック」列島西方ニ近ク向針ス
正午位置

西經 〇度二十二分

北緯 三十七度五十三分

航程二百九十三哩 馬耳塞迄四百二十一哩

此日綠威子午線ヲ通過シテ西經ヨリ東經ニ入ル

七月十四日 金曜日 晴

船ハ北東ノ針路ヲ保チテ馬耳塞ニ向フ

正午位置

東經 四度四分

北緯 四十二度二分

航程三百二十二浬 馬耳塞迄九十九浬

午後六時二十一分港口ニ近ツキ午後七時三十九分曳船ニ曳カレ港内ニ入り午後八時二十分繫留ヲ終ル

七月十五日 土曜日 晴

賀茂丸馬耳塞在泊中 兩殿下御上陸アラセラレス隨員ノ二三各自市街觀光ノ爲メ上陸セシモノアリ

午後六時五十五分賀茂丸解纜午後八時港口ヲ出テ「ボニファシラ」海峡ニ向フ

七月十六日 日曜日 晴

船ハ南東ノ針路ヲ採リテ「コルシカ」島ニ近ツキ航行ス

正午位置

東經 九度三分

北緯 四十一度二十一分

航程三百一浬 坡西土迄千三百六浬

午後一時「ボニファシラ」海峡ヲ東過シ再ヒ南東ノ針路ニ復シ「メッシナ」海峡ニ向フ

七月十七日 月曜日 晴

依然南東ノ針路ヲ以テ噴火山ヲ以テ著名ナル「ストロンボリー」島ニ近ツキ正午之ヲ航過ス

正午位置

東經 十五度六分

北緯 三十八度四十六分

航程三百十九哩 坡西土迄九百八十二哩

午後三時「メッシナ」海峡ニ入り同三十分之ヲ航過シ以太利南端ヲ周航シテ「カンデイア」島南方ニ向フ

七月十八日 火曜日 晴

船ハ南東ノ針路ヲ採リテ希臘南西岸沖ヲ航行ス

正午位置

東經 二十度三十九分

北緯 三十六度八分

航程三百八哩 坡西土迄六百五十六哩

氣温八十度ニ達ス北西ノ風アリカニ乃至三

七月十九日 水曜日 晴

午前一時四十八分「カンデイア」島南方ノ離島「ガブド」島ノ南側ヲ航過ス

正午位置

東經 二十六度二十一分

北緯 三十三度五十二分

航程三百十一哩 坡西土迄三百四十四哩

午後北西ノ風「力五」起リ波浪之ニ伴フ夜ニ入りテ湫ク

午後三時三十分汽船「マセドニア」ノ本船ニ近ク航行スルニ逢フ

七月二十日 木曜日 晴

船ハ南六十度東ノ針路ヲ以テ坡西土ニ向ヒ航行ス

正午位置

東經 三十一度五十分

北緯 三十一度四十四分

航程三百五浬 坡西土迄四十浬

午後〇時四十分埃及北岸「ダミッタ」岬ヲ航過シ熱田丸ノ反航スルニ逢

フ午後三時運河口ニ入り同二十五分運河會社前浮標ニ繫留ス

本船繫留中 兩殿下御上陸アラセラレス「フイヲラバンチ」商會ヨリ

兩殿下ニ草花ヲ獻上ス

午後十時五分解纜運河ニ入り夜航「スエズ」ニ向フ

七月二十一日 金曜日 晴

午前一時四十分反航船八隻ヲ通過セシムル爲本船ハ河岸ニ繫留ス

午前五時再ヒ繫留シテ汽船二隻ヲ反航セシム午前十一時大鹹湖ニ入

ル

正午位置

東經 三十二度二十一分

北緯 三十度二十四分

航程八十四浬 蘇士迄三十三浬

午後五時四十二分運河通航ヲ終リ蘇士ニ於テハ殆ント滯泊セス直

ニ古倫母ニ向フ

本日ノ最高氣溫九十六度ヲ示セリ(午後四時運河通航中)

七月二十二日 土曜日 晴

船紅海ニ入りテヨリ再ヒ蒸暑ヲ感ス

正午位置

東經 三十四度二十七分

北緯 二十六度五十五分

航程二百三十六哩 古倫母迄三千百七十六哩

妃殿下ハ蒸熱酷シキニ關ハラス宮岡御用取扱ト共ニ日々御運動ノ爲メ「デッキ、ゴル」ヲ遊ハサル之カ爲メ頗ル御健康ニ拜シ奉ル

七月二十三日 日曜日 晴

午前西方ヨリ冷風來リシモ暫クニシテ歇メリ熱帶地方航海中船客ハ唯涼風ヲ得ルニ苦慮スル外何等爲ス所ナシ

正午位置

東經 三十七度十七分

北緯 二十二度四十二分

航程二百九十六哩 古倫母迄二千八百八十哩

七月二十四日 月曜日 晴

船ハ紅海ノ中央ヲ航過セルモ尙紅海航程一日ヲ餘マシ蒸暑甚シ殊

ニ本日ハ此航海中最高氣溫ノ日ナリトス

正午位置

東經 三十九度五十五分

北緯 十八度二十分

航程三百一哩 古倫母迄二千五百七十九哩

最高氣溫九十六度、最低氣溫八十六度、水溫最高九十度

七月二十五日 火曜日 晴

船ハ紅海南口ニ近ツキ午前四時「ジエベル、ターヤ」島ヲ航過ス

正午位置

東經 四十二度四十七分

北緯 十四度五分

航程三百四浬 古倫母迄二千二百七十四浬

氣溫九十二度、水溫九十度

午後七時二十五分「ペリム」島ヲ航過シテ紅海ヲ出テ亞典海灣ニ入リ
南八十三度東ノ針路ヲ採ル

七月二十六日 水曜日 晴

午前二時五十七分亞典港口ヲ航過ス午前八時ヨリ南西微西ノ風四
乃至五トナリ波濤ノ飛沫屢々船内ニ入ル

正午位置

東經 四十六度五十八分

北緯 十二度十七分

航程二百六十七浬 古倫母迄千九百七十一浬

午後六時過ニ至リ風向西微北ニ變シ風收マリ碧空ヲ見ル

七月二十七日 木曜日 晴

船ハ亞典灣ヲ斜ニ亞弗利加ノ北東角ニ向ヒ進航ス午前八時「グワル
ダーフィー」岬ノ北側ヲ航過ス

正午位置

東經 五十二度二分

北緯 十一度五十六分

航程二百九十九浬 古倫母迄千六百七十二浬

南方ニ陸地ノ遮蔽ナキニ至リ午後〇時三十分頃ヨリ南南東ノ風起
リ其力六ニ達シ波浪時々舷内ヲ襲フ

午後一時「ソコトラ」島ノ西側ヲ航過シテ印度洋ニ出ツ

七月二十八日 金曜日 半晴

船ハ直路古倫母ニ向ヒ印度洋ヲ東航ス南西ノ風五乃至六ノモノ連

吹シ怒濤屢々舷内ニ入ルモ風向船尾ニ方ルヲ以テ航行甚シク困難ヲ感セス又陰鬱ノ天候ニアラサルヲ以テ航海不快ヲ感セス

正午位置

東經 五十七度五分

北緯 十一度十九分

航程二百九十九哩 古倫母迄千三百七十三哩

氣溫最高七十九度、水溫七十九度

兩殿下御壯健ニ在ラセラレ讀書甲板散步若ハ御遊戯等例ノ如シ

七月二十九日 土曜日 半晴

風向略ホ前日ニ同シク風力五乃至六ニシテ衰ヘス南西ノ長濤アリ航海ノ狀況亦前日ニ同シ

正午位置

東經 六十二度一分

北緯 十度二十七分

航程二百九十五哩 古倫母迄千七十八哩

本日正午船ハ航路上亞刺比亞海ノ畧ホ中央ニアリ

七月三十日 日曜日 晴

風向稍西變セシモ風力依然五乃至六ニシテ南西ヨリ西南西ノ長濤アリ航路ノ狀況前日ニ同シ

正午位置

東經 六十六度四十九分

北緯 九度三十分

航程二百八十九哩 古倫母迄七百八十九哩

氣溫八十四度、水溫八十二度

七月三十一日 月曜日 晴

午前四時以後風力稍衰へ風向西ニ變ス

正午位置

東經 七十一度三十四分

北緯 八度三十九分

航程二百八十六哩 古倫母迄五百三哩

午後七時三十一分「ミニコイ」島ノ北側八哩ヲ航過シ南七十五度東ノ

針路ヲ採リ古倫母ニ向フ

八月一日 火曜日 晴

朝來風向稍北轉シテ西北西ヨリ北西ニ變ス

正午位置

東經 七十六度十二分

北緯 七度五十二分

航程二百七十九哩 航倫母迄二百二十四哩

午後六時三十分頃ヨリ風向急ニ北西ヨリ西南西ニ變セシモ天候ニ

大變化ナシ

爾來 兩殿下御壯健ニ被爲在

八月二日 水曜日 晴

船ハ午前四時四十三分港口ニ近ツキ午前六時四十六分防波堤ヲ通

過シテ港内ニ入り第九浮標ニ繫留ス郵船會社汽船宮崎丸往航途上ニ

テ在泊ス

兩殿下御上陸アラセラレス

午後十時二十五分賀茂丸繫留ヲ解キ新嘉坡ニ向ケ出港ス

八月三日 木曜日 晴

船ハ錫蘭島西側ヲ南下シテ午前六時二十五分同島ノ南端「ドンドラ」角ノ南方三哩ヲ航過シテ洋心ニ向フ

正午位置

東經 八十一度三十九分

北緯 五度五十一分

航程百六十一哩 新嘉坡迄千四百九哩

午後四時頃ヨリ西南西ノ風力四乃至五トナリ波浪高ク船體動搖シ

波浪舷内ニ入ル

午後八時汽船「アラゴニア」ノ反航スルニ逢フ

八月四日 金曜日 半晴

終日南西ノ風力四乃至五ノモノ連吹ス

正午位置

東經 八十六度二十八分

北緯 六度八分

航程二百八十八哩 新嘉坡迄千二百二十一哩

氣溫最高八十六度、水溫八十三度

兩殿下御壯健ニ被爲在、昨夜波浪舷内ニ入り倉庫ノ一部ニ侵入セシ爲メ本日ハ隨行員倉庫ニ入り荷物ノ整頓ヲナス上甲板ニアリテハ涼風時々面ヲ拂フモ一タヒ庫内ニ入レハ蒸暑苦熱ニ堪ヘ難シ

八月五日 土曜日 晴

航海ノ狀況前日ニ同シ

正午位置

東經 九十一度〇分

北緯 六度四分

航程二百七十浬 新嘉坡迄八百五十一浬

正午ヨリ南八十三度東ノ針路ヲ採リ「スマトラ」北西角ニ向フ

八月六日 日曜日 半晴

船ハ「スマトラ」北西端ニ散在スル諸群島ノ間ヲ航過シ馬來加海峽ニ向フ

正午位置

東經 九十五度四十一分

北緯 五度五十分

航程二百八十浬 新嘉坡迄五百七十一浬

氣温最高八十六度ニシテ西ノ風力二乃至三

午後九時三十六分「スマトラ」北東角「ダイアモンド」角ノ北側四浬ヲ航

過シテ海峽ニ入ル、陰雲時々天空ヲ掩フ

八月七日 月曜日 雨、後半晴

船ハ馬來加海峽ヲ南航シテ新嘉坡ニ向フ

正午位置

東經 九十九度四十六分

北緯 三度四十六分

航程二百七十四浬 新嘉坡迄二百九十四浬

兩殿下御異例ナク 妃殿下ハ日々御運動ニ勵マセラル

八月八日 火曜日 半晴、後雨

船ハ午前中ニ殆ント海峽ヲ通過シ終ラントス

正午位置

東經 百三度三十三分

北緯 一度十四分

航程二百七十三哩 新嘉坡迄十八哩

午後二時五分新嘉坡ニ着ス今回ハ往航ト異ナリ本船載荷ノ都合ニヨリ新港第八埠頭ニ繫留ス領事林三井物産會社支店長同夫人其他在留本邦人ノ主ナルモノ奉迎ス獨逸駐在赴任ノ途上ニアル山本海軍少佐(英輔)上船伺候ス

午後五時 兩殿下(略裝)ハ隨行員ヲ從ヘ領事館ニ成ラセラレ御晚餐ノ後午後十時三十分御歸船アリ

八月九日 水曜日 時々驟雨アリ

兩殿下(畧裝)ハ午前十一時渡邊式部官以下隨行員ヲ從ヘ御上陸アリ林三井物産會社支店長宅ニ成ラセラレ爰ニ御休憩アラセラル午餐ノ

後 殿下ハ新嘉坡市中二三ノ店舖ヲ御巡覽アリ御晚餐後兩殿下ハ午後十時三十分御歸船アリ

八月十日 木曜日 晴

午前六時二十五分賀茂丸繫留ヲ解キ香港ニ向ケ出航ス
正午位置

東經 百四度三十六分

北緯 一度三十八分

航程五十六哩 香港迄千三百六十四哩

午後新嘉坡半島ノ南側ヲ周航シテ北東ノ針路ヲ採リアナンバ群島ノ西側ニ向針ス

八月十一日 金曜日 雨曇

船ハ概ネ北東ノ針路ヲ以テ交趾支那ノ南東岸ニ向ヒ航進ス午前八時三十分小雨アリ

正午位置

東經 百六度四十四分

北緯 六度三分

航程二百九十四哩 香港迄千七十哩

午後四時頃ヨリ南西ノ長濤アリ夜ニ入り南微西ノ風力四ニ達ス新嘉坡出港後 兩殿下御壯健ニ被爲在、妃殿下ノ御運動例ノ如シ

八月十二日 土曜日 曇

午前七時四十分ヨリ針路ヲ正北トナシ安南海岸ニ近ツキ午前九時「カット、ウイック」礁ノ西側ヲ十一時「セシル、ド、メール」島ノ西方ヲ航過ス

正午位置

東經 百八度五十八分

北緯 十度四十一分

航程三百八哩 香港迄七百六十三哩

氣温最高八十三度、南西ノ風力四乃至五

午後十一時三十五分船ハ「カムラン」灣ノ北方「バレラ」岬ノ東約二十哩ニアリ

八月十三日 日曜日 曇

船ハ「バラセル」列礁ノ西側ヲ航過シテ海南島東方ノ沖ニ向フ

正午位置

東經 百十度三十六分

北緯 十四度五十七分

航程二百七十三哩 香港迄四百九十二哩

氣温最高八十六度、南西ノ風力三乃至四

八月十四日 月曜日 半晴曇

船ハ海南島東方沖ヨリ香港南方ノ列島ニ向ケ航進ス

正午位置

東經 百十二度二十分

北緯 十九度十四分

航程二百七十六哩 香港迄二百十三哩

夜ニ入り南西ノ長濤起リ船縦動ス

八月十五日 火曜日 半晴

午前一時三十分香港南方、鷓鴣島南西端「ガップ」岩燈光ヲ發見シ船位ヲ定メ五時三十分冷丁島ヲ航過シ港口ニ近ツキ午前十時五十分港内「カ

ウル」第三埠頭南側ニ繫留ス、船津總領事以下在留本邦人ノ主ナルモノノ奉迎往航ノ時ノ如シ

香港總督ハ 兩殿下御到着ノ日ヲ以テ官邸ニ晚餐ヲ催フシ 兩殿下ノ御臺臨ヲ仰キ度旨香港總督副官ヨリ船津總領事ニ照會シ 兩殿下ノ御内意ヲ伺ヒタルニ 兩殿下ハ御辭退アリタリ

八月十六日 水曜日 曇後雨

香港島周岸ニハ奇勝ノ地少カラザルヲ以テ 兩殿下ハ本日汽艇ニテ島廻リノ御計畫ナリシモ曉來天候曇勝チニテ陰晴定マラス午後五時三十分頃ヨリ強風雨アリ到底舟遊ニ適セサル天候トナリシヲ以テ舟遊御見合セアリ終日御在船被爲在、船津總領事夫妻午餐ニ陪席セリ

八月十七日 木曜日 雨後曇

午前十一時水先案内乗船シ同三十五分解纜神戸ニ向ケ出港ス
船津總領事夫妻並ニ在留本邦人ノ主ナルモノ埠頭ニ來集奉送ス

正午位置

東經 百十四度十二分

北緯 二十二度十八分

航程二哩 神戸迄千三百七十二哩

出港後陰雲天ヲ掩ヒシモ海上概ネ平靜ナリ夜ニ入り驟風雨時々襲
來セリ

八月十八日 金曜日 半晴

船ハ支那海岸ニ沿フテ臺灣海峽ヲ北上ス

正午位置

東經 百十九度二十一分

北緯 二十四度二十六分

航程三百一十一哩 神戸迄千五十二哩

午後十一時船ハ臺灣北方彭佳嶼燈臺ノ北西二十七哩ニアリ

八月十九日 土曜日 晴

船ハ南西諸島ノ北側ヲ航過シテ大隅海峽ニ向フ

正午位置

東經 百二十四度〇分

北緯 二十七度二十七分

航程三百九哩 神戸迄七百四十哩

神戸着港ノ時刻ヲ測リ午後四時ヨリ約半節増速ス

兩殿下香港出發後御壯健ニ被爲在、妃殿下ハ例ニ依リ日々御運動

ニ勵マセラル

八月二十日 日曜日 半晴

朝來船ハ土噶喇群島ノ北方ヲ航進ス

正午位置

東經 百二十九度十八分

北緯 三十度十四分

航程三百二十五哩 神戸迄四百十五哩

午後六時三十五分大隅佐多岬通過ノ際船名ヲ通報シ同九時十七分
都井崎ノ南方五哩ヲ航過シ紀淡海峡ニ向フ東ノ長濤アリ

八月二十一日 月曜日 晴

船土佐沖ニ入りテヨリ北東ヨリ東ノ長濤アリ午前九時四十三分室
戸崎ノ南東四哩ヲ航過シテ紀伊水道ニ入ル

正午位置

東經 百三十四度四十二分

北緯 三十三度三十七分

航程三百四十二哩 神戸迄七十二哩

午後一時三十二分日ノ御崎ヲ同三時二十一分苦ヶ島ヲ通過シテ内
海ニ入り神戸ニ近ツクヤ滿船飾ヲナシ同五時五分撿疫ノ爲メ一時停
船シ次キテ港内ニ入り六時十分神戸港第十二浮標ニ繫留ス本船ハ二
十二日神戸着ノ豫定ナリシモ香港出港後潮流ノ順當ナリシト十九日
來増速セシトニ依リ一日早ク歸港セリ

本船入港後先ニ西比利亞ヲ經テ八月七日東京ニ歸着セル戸田式部
長官ハ 兩殿下ノ神戸御着御出迎ノ爲東京ヨリ來リ賀茂丸ノ繫留ヲ
終ルヤ黒澤宮内屬ヲ從へ上船伺候ス神戸地方官ノ奉迎ハ先キニ御發
ノ時ノ如シ

兩殿下ハ此夜御上陸ナク船内ニ御泊アラセラレタリ

八月二十二日 火曜日 晴

二六六

兩殿下(略装)ハ渡邊式部官以下隨行員ヲ從ヘ午前七時御退船汽艇松風ニテ米利堅波止場ニ御上陸アリ兵庫縣廳ニテ準備セル馬車ニテ三ノ宮停車場ニ成ラセラレ七時四十七分御發靜岡ニ向ハセラル戸式部長官御同乗ス

停車場ニハ服部兵庫縣知事竝ニ地方官奉迎ス川口主計總監夫妻ハ大坂迄御同乗セリ

午前八時二十二分大坂驛御通過ノ際淺田第四師團長以下衛戍各部隊長及高崎知事竝ニ地方官奉送ス

同九時十五分京都驛御通過アリ同地ニテハ 邦彥王、多嘉王、同妃殿下、邦憲王殿下、村雲尼公御見送アリ又山中第十六師團長以下各部隊長及地方官奉送ス

京都以後沿道各地ニ於テ所在地方官民ノ奉送ヲ受ケラル特ニ大垣

驛御通過ノ時ハ同地ハ戸田式部長官ノ舊藩地ナルノ故ヲ以テ官民ノ奉送盛大ヲ極メタリ

午後四時二十四分靜岡驛ニ御着アリ松永知事、長島市長、竹内陸軍少將其他地方官民奉迎ス

桂別當、岩倉公爵夫人ハ東京ヨリ靜岡ニ來リ御着ノ際御出迎セリ

兩殿下ハ徒歩ニテ驛前ノ大東館ニ入ラセラレ其夜同館ニ御一泊アリ

八月二十三日 水曜日 晴

兩殿下(略装)ハ渡邊式部官以下隨行員ヲ從ヘ午前七時十分御旅館御發七時二十分靜岡發ノ臨時列車ニ召サレ歸京ノ途ニ就カセラル地方官ノ奉送前日ニ同シ

午後零時四十分御召臨時列車新橋停車場ニ着ス

二六七

兩陛下及皇太子殿下ヨリ御使御出迎アリ
鳩彦王、博恭王妃殿下御出迎アリ

桂首相、英國大使「サー、クロード、マクドナルド」夫妻、各國務大臣、元帥、大將其他在京勅奏任官多數奉迎ス

兩殿下、殿下、上黒、下白ノ通常禮服、妃殿下洋裝ハ御下車ノ後宮内省ヨリ差廻ハセル馬車ニテ停車場ヨリ直ニ宮城ニ御參内アリ御機嫌奉伺サレタル後、午後一時三十分御歸邸アリ

御歸邸後、隨員並ニ御歸京奉祝ノ爲メ參邸セル諸員ヲ召サレ食堂ニ於テ御歸邸ノ祝盃ヲ舉ケラレ終テ隨行員一同退散セリ

八月二十四日 木曜日 晴

殿下ハ午前十時三十分御參内、御座所ニ於テ 天皇陛下ニ拜謁アリ 陛下ノ御名代トシテ戴冠式ニ御參列ノ御使命ニ關シ口頭御復

命アリタリ

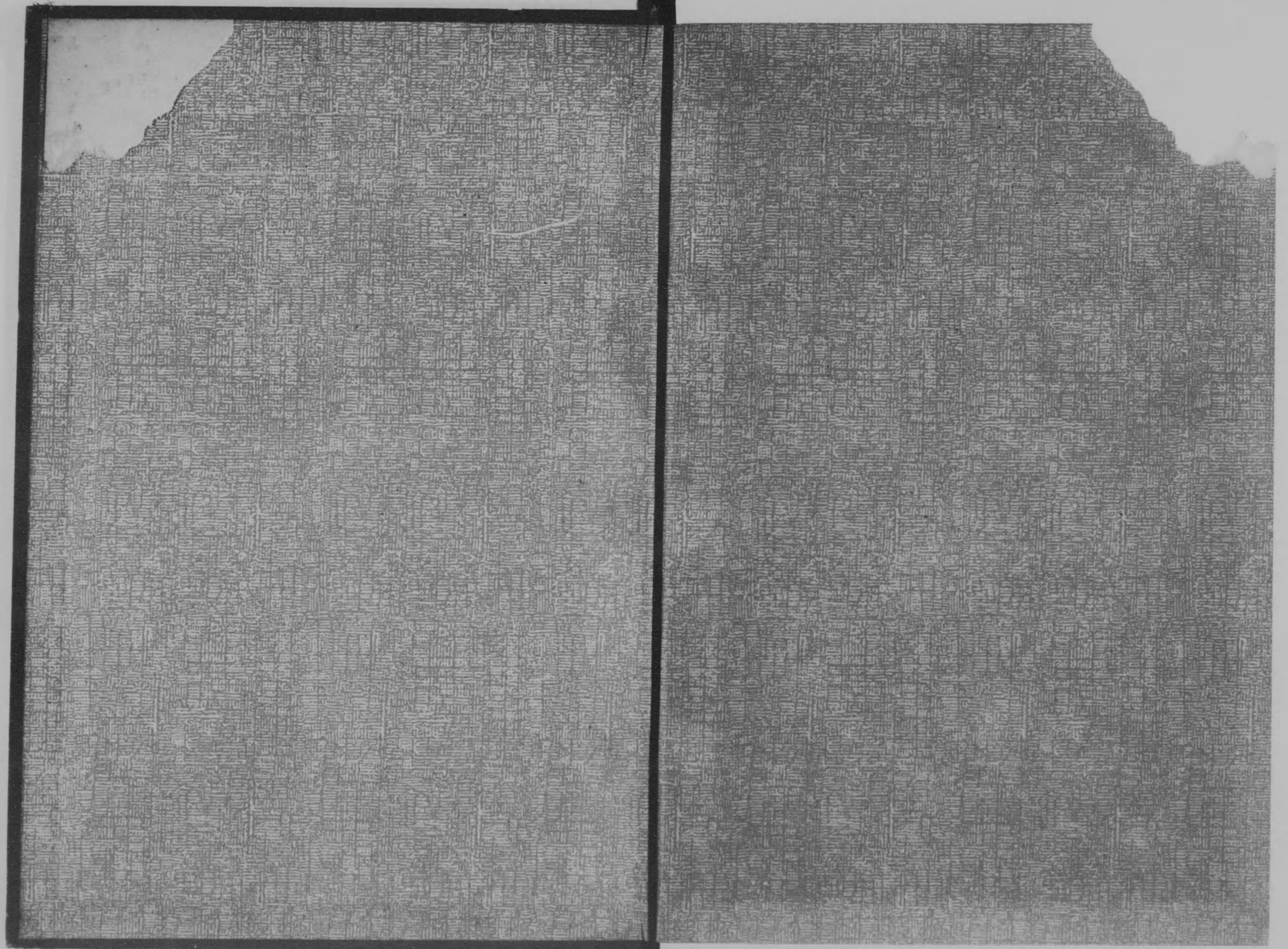
(因ニ記ス) 乃木大將、吉田中佐ハ七月二日倫敦ニ於テ一行ニ別レシヨリ獨、佛、埃、巴爾幹諸國ヲ巡視シ西比利亞ヲ經テ八月二十日東京ニ歸着セリ

東郷大將、谷口中佐ハ 兩殿下倫敦御出發後英國內ヲ巡視ノ後、米國ニ入り國賓トシテ盛大ナル歡迎ヲ受ケ八月廿九日「シヤトル」發ノ丹波丸ニ乗船シ九月十五日横濱ニ着シ同日歸京セリ

(日記終)

(注意) 本日記ハ御參列記錄中 兩殿下本邦御出發ヨリ御歸朝迄ノ重要事項ノミヲ抄録印刷セルモノニシテ御出發前ノ記事其他ノ關係圖書表等ハ東伏見宮ニ御收藏ノ 兩殿下英國皇帝戴冠式御參列記錄ニ詳ナリ





終